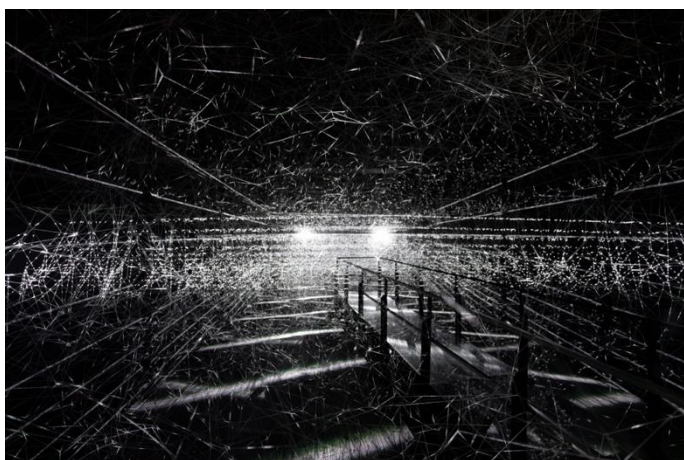


ライブ・アート・パフォーマンス、食体験、アート展示が融合した芸術祭  
＜千葉県誕生 150 周年記念事業 百年後芸術祭 ～環境と欲望～ 内房総アートフェス＞

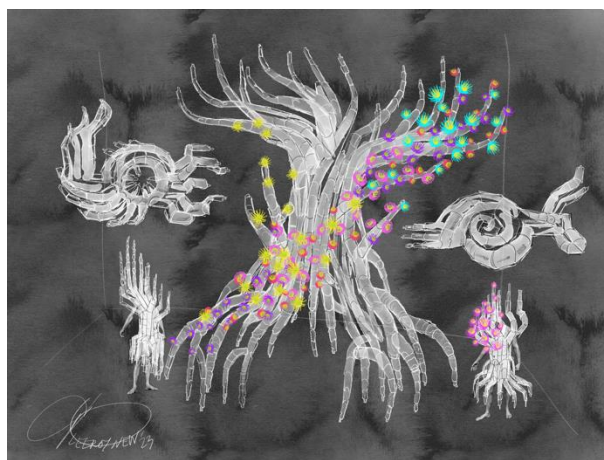
## 内房総 5 市で展示するアート作品のアーティストが決定！

梅田哲也、小谷元彦、SIDE CORE、さわひらき、島袋道浩、名和晃平、リナ・バネルジー/  
ペギー・E・レイノルズ、保良雄、ディン・Q・レら、総勢約 70 組のアーティストが参加

- 前売パスポート発売開始：2024 年 2 月 9 日（金）
- アート作品展示期間：2024 年 3 月 23 日（土）～5 月 26 日（日）



千田 泰広作『Analemma 2023』牛久リ・デザインプロジェクト(2023年)出展作品



リーロイ・ニュー制作作品『多次元の港としてのバレテ』のイメージスケッチ

市原市、木更津市、君津市、袖ヶ浦市、富津市の内房総 5 市で開催中の「百年後芸術祭-内房総アートフェス-」について、2024 年 3 月 23 日（土）から始まるアート作品展示の出展アーティスト約 70 組が決定しました。また、アート作品展示の会期中、全会場へ各 1 回入場可能となる前売パスポートが 2024 年 2 月 9 日（金）から販売となります。

千葉県誕生 150 周年記念事業の一環として 9 月から開催中の「百年後芸術祭-内房総アートフェス-」は、「広域連携」「官民協同」による初の試みとして、アート、クリエイティブ、テクノロジーの力を融合した、百年後の新しい未来を創っていくための持続可能なプラットフォームとしての芸術祭を目指しています。これまで、9 月に初披露された、音楽・映像・ダンス・光・テクノロジー（ドローン）を融合させた「en Live Art Performance」を皮切りに、10 月には「円都 LIVE(エンライブ)」を開催。さらに、11 月には、「en Live Art Performance」と、食と学びの新たな食体験イベントとして、内房総 5 市などの魅力的な食材が集結した「EN NICHI BA（エンニチバ）」を同時開催しました。

そして、2024 年 3 月 23 日（土）～5 月 26 日（日）のアート作品展示では、気鋭の現代アート作家を国内外から招聘し、内房総 5 市の各所で、アート作品を展示します。市原市においては、牛久商店街や市原湖畔美術館、旧里見小学校などの各拠点に約 50 作品展開します。新設となる、木更津、君津、袖ヶ浦、富津の各市では、来場者が巡回しながらアート作品を鑑賞しやすいよう、それぞれ拠点となる地域を選定し、作品を展示します。出展アーティストは、梅田哲也、小谷元彦、SIDE CORE、さわひらき、島袋道浩、名和晃平、リナ・バネルジー/ペギー・E・レイノルズ、保良雄、ディン・Q・レなど総勢約 70 組が参加します。絵画、彫刻、映像、インスタレーションなど、様々な手法を用いて表現される作品たちが、内房総 5 市を舞台に展開します。

百年後を考える誰もが参加できる芸術祭。総合プロデューサーはクルックフィールズ（木更津市）の代表を務める小林武史、アートディレクターは地域に根ざした芸術祭を数多く手掛ける北川ワラムが務めます。

## 総勢約 70 組の気鋭のアーティスト一覧とプロフィールの一部をご紹介します

### 【アーティスト一覧（日本人作家五十音順・敬称略）】

秋廣誠、アコンチ・スタジオ(アメリカ)、浅井裕介、東弘一郎、アブドゥルラーマン・アブダラ(オーストラリア)、EAT & ART TARO、石川洋樹、イ・ビョンチャン(韓国)、岩崎貴宏、岩沢兄弟、岩間賢、梅田哲也、大西康明、大貫仁美、岡田杏里(日本/メキシコ)、岡博美、小沢敦志、小谷元彦、開発好明、ジョアン・カポーテ(キューバ)、カルロス・ガライコア(キューバ)、ソカリ・ドグラス・カンブ(ナイジェリア/イギリス)、木村崇人、ダダン・クリスタント(インドネシア)、栗田宏武、CLIP、栗真由美、クワクポリョウタ、KOSUGE1-16、SIDE CORE、笹岡由梨子、佐藤悠、さわひらき(日本/イギリス)、塩月洋生、時速 30km の銀河の旅、島袋道浩、鈴木ヒラク、鈴木敦夫、竹村京、多田淳之介(東京デスロック)、田中奈緒子(日本/ドイツ)、千田泰広、チョウハシトル、チョ・ウンピル(韓国)、富安由真、豊福亮、中崎透、中根唯、名和晃平、西尾美也、ニブロール、リーロイ・ニュー(フィリピン)、沼田侑香、灰原千晶、リナ・バネルジー/ペギー・E・レイノルズ(インド/アメリカ)、ヘラルド・バルガス(メキシコ)、深澤孝史、藤本壮介、アレクサンドル・ポノマリョフ(旧ソ連[ドニプロ]/ロシア)、榎原泰介、毛利悠子、森靖、ラヴァル・モンロー(バハマ/アメリカ)、保良雄、柳建太郎、エルヴェ・ユンビ(カメルーン)、リュウ・イ [劉毅](中国)、ディン・Q・レ(ベトナム)

※クルックフィールズ内の作品群(カミーユ・アンロ、ファブリス・イペール、アニッシュ・カプーア、草間彌生、Chim ↑ Pom from Smappa!Group、増田セバスチャンなどの作品)は、2019 年の施設設立以降、施設用に設置されたものです。今回、クルックフィールズが内房総アートフェス会場の一つとなったため、特別に作品を公開する予定です。

### 【アーティストのプロフィールを一部ご紹介（日本人作家五十音順・敬称略）】

#### 東弘一郎（あずまこういちろう）

日本

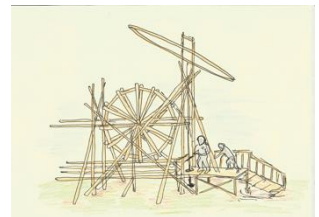
東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻博士後期課程在籍。

主に自転車などのジャンクや金属を用いて、動く立体作品を制作する。

宮田亮平賞受賞、サロン・ド・プランタン賞受賞、第 24 回岡本太郎現代芸術賞 (TARO 賞) 入選、「越後妻有 大地の芸術祭 2022」参加。

地域芸術の研究に取り組み、茨城県日立市でのアートプロジェクト「星と海の芸術祭」を企画。最近では茨城県坂東市に現代美術制作のための「株式会社あずま工房」を設立し、金属加工を中心に様々な美術作品の制作や施工を請け負っている。

茨城県取手市の自転車放置問題に対してアートによる介入を試みた経験は現在に至るまで自身を代表する活動となり、全国各地で継続して行っている。破棄された自転車を収集する過程で生じる人々との関わりから記憶の断片を紡ぎ、集積していくことで作品に新たな命が吹き込まれ、地域へ還元されていく。



#### 梅田哲也（うめだてつや）

日本

現地にあるモノや日常的な素材と、物理現象としての動力を活用したインスタレーションを制作する一方で、パフォーマンスでは、普段行き慣れない場所へ観客を招待するツアー作品や、劇場の機能にフォーカスした舞台作品、中心点を持たない合唱のプロジェクトなどを発表。先鋭的な音響のアーティストとしても知られる。

近年の個展に「wait this is my favorite part / 待ってここ好きなとこなんだ」(ワタリウム美術館、2023-2024 年)、「梅田哲也 イン 別府『O滞』」(2020-2021 年)、「うたの起源」(福岡市美術館、2019-2020 年)、公演には「9月0才」(高槻現代劇場、2022 年)、「Composite: Variations / Circle」(Kunstenfestivaldesarts、2017 年)、「INTERNSHIP」(国立アジア文化殿堂、2016 年他)などがある。



Photo by Tanaka Chihiro



《遠のく》奥能登国際芸術祭 2023 Photo by Kazusa Saikai

## 大貫仁美（おおぬきひとみ）

日本

千葉生まれ。千葉を拠点に制作を行う。

武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業。

完璧とは違う欠落から生じる美の姿、いわゆる「不具性の美」をテーマに「傷」を装飾し

「美」に転じさせる金継ぎの技術を使い、ガラスの立体作品を制作。



### 【近年の主な展示・掲載歴】

2023年 中之条ビエンナーレ 2023

2021年 素材転生-Beyond the Material- (岐阜県美術館)

2020年 清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2020 (岐阜県美術館)

別冊炎芸術「ガラス工芸家 100人 現代日本の精鋭たち」掲載



## 小谷元彦（おだにもとひこ）

日本

1972年京都府生まれ。

失われた知覚や変容を幻影として捉え、覚醒と催眠、魔術と救済、合理と非合理、人間と非人間など両義的な中間領域を探求する。また日本の近現代彫刻史の新たな脱構築に向けて、研究と実践を行う。ヴェネチア・ビエンナーレ日本館（2003）、リヨンビエンナーレ（2000）、イスタンブール・ビエンナーレ（2001）など多くの国際展に出品。立体作品のみならず多様なメディアを用い、綿密に構成された完成度の高い作品が内外で評価されている。近年の展示に「新しいエコロジーとアート」（東京藝術大学大学美術館、2022）、「リボンアート・フェスティバル 2021-2022」（宮城県石巻市、2022）、「瀬戸内国際芸術祭 2022」（女木島）、「A Gateway to Possible Worlds」（ポンピドゥー・センター・メッス、2022）がある。2020年には「Public Device 彫刻の象徴性と恒久性」（東京藝術大学陳列館）のキュレーションを手がけた（共同キュレーター小田原のどか）。



## 開発好明（かいはつよしあき）

日本

身の回りにある日常の出来事や変化をユーモアを交えながらすくい取り、様々なメディアを使いながら作品を発表し続けている。2004年にヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館「おたく：人格＝空間＝都市」、2006年に「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2006」、「berlin-Tokyo/Tokyo-Berlin」（ニューナショナルギャラリー、ベルリン）に出品。2016年「開発好明：中2病」展（市原湖畔美術館）を開催。2019年「あそびの時間」（東京都現代美術館）に参加。現在も国内外で発表を続けている。また2011年の東日本大震災を期に、作家仲間と「デイリーアートサーカス」を主催し延べ150ヶ所を訪問、南相馬市に「政治家の家」を設置し現在も活動を続けている。



100人教頭学校キョンキョン「滝教頭 松本靖彦」

## ソカリ・ドグラス・カンブ

ナイジェリア／イギリス

1958年ナイジェリア生まれ。イギリスでも活動。

セントラル・セント・マーチンズでファインアートを、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートでデザインを専攻。イギリスとナイジェリアを代表するアーティストであり、国立アフリカ美術館、スミソニアン博物館、ロンドン人類学博物館などの会場で40以上の個展を開催した。



## SIDE CORE (サイドコア)

日本

2012年より活動をはじめ。公共空間におけるルールを紐解き、思考の転換、隙間への介入、表現やアクションの拡張を目的に、ストリートカルチャーを切り口として「都市空間における表現の拡張」をテーマに屋内・野外を問わず活動。

- 「Yatsugatake Art Ecology」(山梨/2023) - 「BAYSIDE STAND」(東京/2023)  
- 「奥能登国際芸術祭 2023」(2023年/石川、珠洲市) - 六本木クロッシング 2022 展：往来オーライ！(2022年/東京)

「水の波紋展 2021」(ワタリウム美術館周辺、東京、2021)、 「Out of Blueprints by Serpentine Galleries」(NOWNESS、ロンドン、2020)



## さわひらき

日本/イギリス

石川県生まれ。ロンドン大学スレード校美術学部彫刻科修士課程修了。ロンドンおよび金沢を拠点に制作。映像・立体・平面作品などを組み合わせ、それらにより構成された空間/時間インスタレーションを展開し独自の世界観を表現している。自らの記憶と他者の記憶の領域を行き来する反復運動の中から特定のモチーフに光を当て、そこにある種の普遍性をはらむ儚さや懐かしさが立ち上がる作品群を展開している。主な展示に「Memoria paralela」(Museo Universidad de Navarra、パンプローナ、スペイン、2019)、「Latent Image Revealed」(神奈川芸術劇場、横浜、2017)、「Under the Box, Beyond the Bounds」(東京オペラシティアートギャラリー、東京、2014/Art Gallery of Greater Victoria、ブリティッシュコロンビア、カナダ)など。



## 島袋道浩 (しまぶくみちひろ)

日本

1969年、神戸市出身。現在は那覇市を拠点に世界各地で活動。

1990年代初頭より国内外の多くの場所を旅し、その場所やそこに生きる人々の生活や文化、新しいコミュニケーションのあり方に関するパフォーマンス、映像、彫刻、インスタレーション作品などを制作。その作品は時に生き物と人間との関係にも及ぶ。詩情とユーモアに溢れながらもメタフォリカルに人々を触発するような作風は世界的な評価を得ている。

主な近年の個展としては、ミュージオン：ボルツァーノ現代美術館、イタリア(2023年)、ウィルス現代アートセンター、ブリュッセル、ベルギー(2022年)、モナコ国立新美術館、モナコ(2021年)、クレダック現代アートセンター、イブリー、フランス(2018年)、クンスト・ハーレ・ベルン、スイス(2014年)など。

主要な国際展にも数多く参加し、その中には第57回ヴェネツィア・ビエンナーレ(2003年 & 2017年)、第14回リヨン・ビエンナーレ(2017年)、第12回ハバナ・ビエンナーレ(2015年)、第27回サンパウロ・ビエンナーレ(2006年)などがある。



Photo by Noguchi Rika

## 千田泰広 (ちだやすひろ)

日本

1977年神奈川県生まれ。長野県拠点。

身近な素材と膨大な手作業で、体性感覚に働きかける空間を制作。欧州各国最大の芸術祭を中心に、約150の展示に参加。Artdex「世界の9人の光のアーティスト」(2019)、米光学誌OPTICA「光のアーティスト8人」(2022)に選出。リヨン(フランス、2021)、アムステルダム(オランダ、2017・2018)など、世界最大のライトフェスティバルへ参加のほか、大規模な回顧展が欧州を巡回。世界のライトアートを牽引。



## 中崎透（なかざきとおる）

日本

1976年茨城県生まれ。美術家。武蔵野美術大学大学院造形研究科博士後期課程満期単位取得退学。現在、茨城県水戸市を拠点に活動。言葉やイメージといった共通認識の中に生じるズレをテーマに自然体でゆるやかな手法を使って、看板をモチーフとした作品をはじめ、パフォーマンス、映像、インスタレーションなど、形式を特定せず制作を展開している。2006年末より「Nadegata Instant Party」を結成し、ユニットとしても活動。2007年末より「遊戯室（中崎透+遠藤水城）」を設立し、運営に携わる（-2021）。2011年よりプロジェクト FUKUSHIMA!に参加、主に美術部門のディレクションを担当。近年の主な展覧会に「越後妻有 大地の芸術祭 2022」（新潟）、個展「FICTION TRAVELAR」水戸美術館現代美術ギャラリー（茨城）など。 nakazakitohru.com



## 名和晃平（なわこうへい）

日本

彫刻家／京都芸術大学教授／Sandwich Inc. 主宰

1975年生まれ。2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。京都を拠点に活動を展開し、2009年、伏見にSandwichを創設。独自の「セル（細胞・粒）」の概念のもと、彫刻の「表皮」に焦点を当て、ジャンルを横断した数々の作品シリーズを発表。彫刻の定義を柔軟に解釈し、鑑賞者に素材の物性がひらかれてくるような知覚体験を生み出してきた。2023年6月、フランス・セヌ川に浮かぶセガン島にて高さ25mの新作《Ether (Equality)》を発表。



## リーロイ・ニュー

フィリピン

1986年フィリピン南部ミンダナオ島生まれ。マニラ在住。

フィリピン大学美術学部卒業。身に着けることができるウェアラブル・アートから大規模なインスタレーションまで、多彩な作品をつくる。また、「廃棄物」を素材として着目し作品制作を続け、フィリピンの芸術教育における欧米のスタイルから脱却し、植民地以前のフィリピン独自の芸術表現を探求している。

ハワートリエナーレ（2022）、ドバイエキスポ（2020）、シドニービエンナーレ（2022）などの国際展に出展。福岡アジア美術館のアーティストインレジデンス（2022）に参加。2023年9月には、作品制作にあたり市原市内で海外にルーツを持つ大人や子どもとのワークショップを実施した。市原湖畔美術館では、市原市民から集めたペットボトルなどの廃棄物や竹を使い、高さ9メートルの吹き抜け空間を活かした巨大なインスタレーションを制作する。



## 保良雄（やすらたけし）

日本／フランス

フランスと日本を拠点に活動。2018年、東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2020年、École nationale supérieure des beaux-arts 修了。テクノロジー、生物、無生物、人間を縦軸ではなく横軸で捉え、存在を存在として認めることを制作の目的としている。2018年ポルトランドのアーティスト・イン・レジデンス「END OF SUMMER」に参加。主な展覧会に、「私たちのエコロジー：地球という惑星を生きるために」（森美術館、2023-2024）、「エコロジー：循環をめぐるダイアローグ つかの間の停泊者」（銀座メゾンエルメス フォーラム、2024）、「Reborn-Art Festival 2021-22」（宮城県石巻市、2022）、「Le 65e Salon de Montrouge」（パリ、2021）など。



©Kito\_Natsuko



©Taichi\_Saito

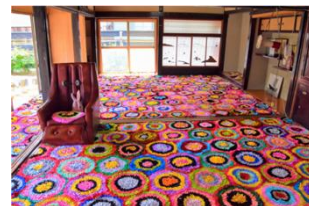
## ディン・Q・レ

ベトナム

1968年にベトナム、カンボジアとの国境付近のハーティエンで生まれる。ホーチミン在住。1978年、ボートピープルとしてベトナムを脱出、家族でアメリカへ移住。カリフォルニア大学サンタバーバラ校で学んだ後、ニューヨークのスクール・オブ・ヴィジュアルアーツで写真を学び、修士課程修了。

2015年に森美術館で開催された個展「ディン・Q・レ展：明日への記憶」では、ベトナム戦争終結から40周年の節目に、歴史上で取り上げられてこなかった市民の声を拾った作品の数々を発表。2019年の瀬戸内国際芸術祭では、栗島でのリサーチと地元住民へのインタビューを元に《この家の貴女へ贈る花束》のインスタレーションを発表。

ドクメンタ 13（カッセル、ドイツ、2012）、シンガポール・ビエンナーレ（2008、2006）など、多数の国際展に参加。ケ・ブランリー美術館（2022）、ニューヨーク近代美術館（2010）などで個展。



《この家の貴女へ贈る花束》瀬戸内国際芸術祭 2019 展示風景

## アート作品展示 概要

### 【アート作品展示】

- ・開催期間：2024年3月23日（土）～5月26日（日）  
※火・水曜日定休（4月30日・5月1日は除く。一部施設は通常営業）（全49日）
- ・開催時間：10時～17時  
※作品によって公開日・公開時間が異なる場合がございます。

### 【パスポートについて】

#### 販売期間

- ・前売パスポート：2024年2月9日（金）～3月22日（金）
- ・当日パスポート：2024年3月23日（土）～5月26日（日）

#### 価格

- ・一般 当日：3,500円、前売：2,500円（税込）
- ・小中高 当日：2,000円、前売：1,000円（税込）  
※県内の小中学生は無料引換券を配布（予定）
- ・小学生未満 無料

※芸術祭の全会場へ各1回入場可能（ただし、有料イベントや有料体験ワークショップなどは別料金）。

※2回目からは個別鑑賞券（値段未定）が必要。

#### 前売パスポートの販売方法

- ・各種プレイガイド、内房総アートフェス事務局窓口、クルックフィールズほかで販売予定です。詳細については、決まり次第、下記の公式サイトで公表します。

#### 注意事項

- ・再発行、払い戻しは不可

#### オフィシャルサイトのURL

<https://100nengo-art-fes.jp/>

### <百年後芸術祭のコンセプト>

**100年後を考え、表現することすべてが芸術活動。一緒に100年後の未来を創っていくための、共創の場**

百年後芸術祭は、千葉県を舞台とした百年後を考える誰もが参加できる芸術祭です。

100年後を思うことは「利他」そのもの。

100年後に残したいアートとは何か？100年後に残したい音楽とは何か？

100年後に残したい食とは何か？100年後に残したいこととは何か？

この芸術祭は、一緒に100年後の未来を創っていくための、共創の場。

100年後を考え、表現することすべてが芸術活動になります。

さあ、一緒に100年後を考えてみませんか？

### <百年後芸術祭-内房総アートフェス-開催趣旨>

**内房総5市による「広域連携」および「官民協同」による初の試み**

千葉県誕生150周年記念事業の一環として県内各所で実施される百年後芸術祭。

市原市、木更津市、君津市、袖ヶ浦市、富津市の内房総5市では、「広域連携」「官民協同」による初の試みとして、百年後芸術祭-内房総アートフェス-を開催します。

アート、クリエイティブ、テクノロジーの力を融合し、百年後の新しい未来を創っていくための持続可能なプラットフォームとしての芸術祭を目指します。

#### **<<本件に関する報道関係者のお問い合わせ先>>**

百年後芸術祭-内房総アートフェス-PR事務局（サニーサイドアップ内）

担当：小坪（080-4112-1337）、岡山（070-3315-4410）、金田一、武内／E-MAIL: uchiboso-artfes\_pr@ssu.co.jp